



# 使用説明書

動物用医薬品

使用前に必ず本使用説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。

## AE乾燥生ワクチン

(鶏脳脊髄炎生ワクチン (シード))

### [製法及び性状]

本剤は、鶏脳脊髄炎ウイルスを SPF 鶏群由来の発育卵で増殖させ、その感染胚乳剤に安定剤を加えて凍結乾燥したのち、減圧下で封じたものである。

乾燥ワクチンは、黄褐色の乾燥物で、添付の溶解用液を加えて振り混ぜると容易に溶解し、黄褐色不透明の均質な懸濁液となる。

溶解用液は滅菌精製水で、無色透明な液体である。

### [成分及び分量]

ワクチン 1 バイアル (飲水投与の場合 1,000 羽分、経口投与の場合 20 羽分) 中	
鶏脳脊髄炎ウイルス 0596 株 (シード)	10 <sup>4.3</sup> CID <sub>50</sub> 以上
YLE 培養液成分	2.6mL相当分
ベンジルペニシリンカリウム	400単位以下
硫酸ストレプトマイシン	400μg(力価)以下
ブドウ糖	105mg
L(+)-グルタミン	10.5mg
脱脂粉乳	90mg
溶解用液 1 バイアル (4mL) 中	
精製水	4.0mL

### [効能又は効果]

鶏脳脊髄炎の予防

### [用法及び用量]

100 日齢以上の鶏群を対象とする。

経口投与の場合、群の数パーセント (2～5%) の鶏に対し、溶解用液で溶解したワクチンを 1 羽当たり 0.2mL ずつ投与する。

飲水投与の場合、群の全羽の鶏に対し、1,000 羽分当たり 4mL の溶解用液で溶解したワクチンを日齢に応じた飲水で希釈し、投与する。

### [使用上の注意]

#### (一般的注意)

1. 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
2. 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
3. 本剤は効能・効果において定められた目的のみ使用すること。
4. 本剤はシードロットシステムにより製造され、国家検定を受ける必要のないワクチンであるため、容器又は被包に「国家検定合格」と表示されていない。

#### (使用者に対する注意)

1. 誤ってワクチンが眼、鼻、口等に入った場合は直ちに水で洗浄すること。必要があれば本使用説明書を持参し、医師の診察を受けること。

#### 本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗 原		アジュバント	
	人獣共通 感染症の 当否	微生物の 生・死	有無	種類
鶏脳脊髄炎ウイルス	否	生	無	

本ワクチン株は、人に対する病原性はない。

本ワクチンに関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

日生研株式会社 製品係 〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目2221番地の1  
TEL 0428-33-1009、FAX 0428-31-6696

2. 事故防止のため、作業時には防護メガネ、マスク、手袋等を着用すること。
3. 作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

#### (鶏に対する注意)

##### 1. 制限事項

- (1) 本剤の投与前には健康状態について検査し、重大な異常 (重篤な疾病) を認められた場合は投与しないこと。
- (2) 鶏が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与の適否の判断を慎重に行うこと。
  - ・元気消失、食欲不振、発熱、下痢、重度の皮膚疾患、呼吸器症状など臨床異常が認められるもの。
  - ・疾病の治療を継続中のもの又は治癒後間がないもの。

- ・明らかな栄養障害があるもの。
- ・他の薬剤投与、導入又は移動後間がないもの。
- (3) 1週齢未満の移行抗体を持たない幼すうがワクチンウイルスに感染すると発病する危険性があるので、ワクチン投与鶏から嚴重に隔離すること。
- (4) 種鶏では、本剤投与後1か月間は、ワクチンウイルスの介卵感染の可能性があるため、種卵を採取しないこと。
- (5) ワクチン投与後は、飼育管理に十分に注意し、鶏に与えるストレスの軽減に努めること。
- 2. 副反応
  - 産卵中の鶏群に投与すると産卵低下を起こす場合がある。
- 3. 相互作用
  - (1) 本剤には他の薬剤（ワクチン）を加えて使用しないこと。
  - (2) 本剤投与前後24時間は、消毒剤や他の薬剤の使用を控えること。
- 4. 適用上の注意
  - (1) ワクチン調製時には、清潔な用具を使用し、雑菌などを混入させないこと。
  - (2) 本剤の投与方法には、経口及び飲水法があるので、各投与法の注意事項を守って正しく使用すること。

#### 経口投与する場合

- ・経口投与に用いる器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒した器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、常温まで冷えたものを使用すること。
- ・投与はなるべく鶏の喉の奥に行い、嚥下を確認してから鶏を放すこと。
- ・鶏群全体を均一に免疫するために、投与鶏は鶏群内に均等に分布させること。

#### 飲水投与する場合

- ・投与する鶏の、のどを湿かすため、投与前2～3時間は給水を止めること。
- ・投与に使用する給水器等の給水設備は、清浄な水で（消毒剤などは使用しないで）よく洗浄した後、乾燥させること。
- ・飲水用の水は、井戸水、清水等を利用すること。水道水を利用する場合は、煮沸後冷却したもの、汲み置きしたもの、チオ硫酸ナトリウム（ハイポ）を0.01～0.02%の割合、あるいはスキムミルクを0.25%の割合で添加したものをを使用すること。
- ・ワクチンが均一になるように、よく混和した飲水を給水器設備全体にゆきわたるようにすること。また、飲水投与中の給水器等に直射日光が当たらないようにすること。
- ・ワクチンがすべて飲みつくされてから通常の給水にきりかえること。

#### 【取扱い上の注意】

1. 乾燥ワクチン瓶内は、真空になっており破裂するおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
2. 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
3. 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
4. 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
5. 溶解は使用直前に行い、溶解後は速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
6. 使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、消毒又は滅菌後に地方公共団体条例等に従い処分、若しくは感染性廃棄物として処分すること。使用した器具や器材は消毒後水洗いすること。

#### 【保管上の注意】

1. 小児の手の届かないところに保管すること。
2. 直射日光は品質に影響を与えるので避けること。
3. 溶解用液は凍結すると容器が破損する場合があるので避けること。

注意—獣医師等の処方せん・指示により使用すること

#### 【貯法及び有効期間】

1. 遮光して、2～5℃に保存する。
2. 有効期間は、製造後2年3か月間である（最終有効年月は外箱及びラベルに表示）。

#### 【包装】

- 1セット 飲水投与の場合：1,000羽分、経口投与の場合：20羽分（4mL溶解用液添付）

〔2013年7月改訂〕